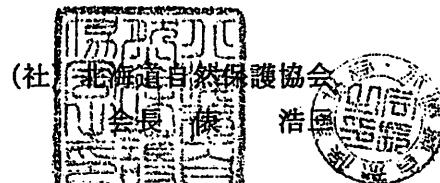


Tel 北海道支社

1999年12月20日

日本道路公団

北海道支社長 辻 吉昭 様



上記・長万部町・八雲町間の高速道路建設に関する自然破壊の問題については、当協会稗田理事が担当しており、貴支社担当部門から「かかる区間の河川橋梁工事に当たって配慮すべき事項の指摘」を求められ、対応してきたところです。ここに、以下の項目についてさらにお尋ねいたしますので、ご回答いただければ幸いです。

1. ポンワルイ川・ワルイ川の橋梁に関する配慮点

すでに稗田理事が指摘した配慮点であるにも関わらず、この橋梁は、河道を3分の1程度までに狭めて建設されました。このことによって、今後、流れが変わり、生態系に大きな影響が生じることが危惧されます。貴支社・貴局では、流れの変化による生態系への影響をどのように予測・評価されたのか、ご説明をお願いします。

また、河道を狭めたことによって、下流にあるJRや国道5号線の橋に影響が生じないのか、ご説明をお願いします。ちなみに、JR橋や国道5号線橋に影響があった場合、新たに橋梁建設が必要になり、生態系への影響がさらに拡大することが懸念されます。

さらに、これら二河川の橋梁に関しては、すでに環境影響評価書に配慮すべき点が指摘されておりましたが、それらの配慮事項についてどのように対処されたのか、ご説明をお願いします。また、この点について住民と話し合う機会を持たなかったのはなぜか、ご説明をお願いします。

2. 茂国縫川の橋梁に関する問題点

茂国縫川の橋梁工事では、自然な川岸を保存するため、堤の外側（堤内地）に橋脚が建設されました。しかし、その後、川岸が掘削され、橋脚を堤の外側に置いた意味が全くなくなりました。また、この掘削により、当該部分から川岸の洗掘が始まることが強く懸念されます。こうした措置（工事のあり方）に抗議いたしますが、何故、このような工事を実施したのか、その理由の説明を願います。

また、茂国縫川は、水量の少ない小さな川でありながら、自然河川として、わき水が豊富で水質が良好な特長があります。ところが、この川に対してコンクリートU字溝によって排水を注入する構造の工事になっており、水質の劣化やわき水の分断などによる生態系への影響が大きく危惧されます。このことについて、何をどの程度、配慮したのか、説明をお願いします。

3. シラリ川の橋梁に関する問題点

シラリ川の橋梁工事では、橋脚をすでに護岸されている場所に建て、元来の護岸を新たにコンクリート連結ブロックに作り直しております。しかし、構造的に見まして、連結ブロックの前後が掘削されますので、川岸が洗掘され川岸の浸食が進行することが強く懸念されます。コンクリート連結ブロックの両端が洗掘されることはないのか、その影響をどう判断されたのか、説明をお願いします。

また、シラリ川に流入する沢をコンクリート3面張りの水路に改築しております。ここに、ザリガニやサンショウウオなどの小動物が生息していなかったのか、3面張り工事が生態系へ与える影響をどう判断されたのか、説明をお願いします。

4. 遊楽部川の橋梁構造に関する問題点

遊楽部川の橋梁構造について、お尋ねします。堤の内側（堤外地）に橋脚の本数を減らすよう配慮され、河道内に2本の橋脚が建てられるとお聞きしました。しかし、そのうち1本はサケの産卵場であり、同時にオオワシ・オジロワシの採餌場でもある河道内に建てられると聞いております。また、遊楽部川は近年激しい増水と大量の流木が見られるようになっています。こうした状況下で、河道内に橋脚を建設することの影響はないのか、影響をどのように判断されたのか、説明を願います。例えば、増水時に橋脚回りが激しく洗掘され、深く掘られ、サケの産卵場が破壊され、流路が変わることもあれば。

また、河道内の橋脚建設による現状の流路への影響や下流域の生態系への影響について、どう考えられているのか説明してください。下流域には、JR橋、道道橋、国道5号線橋のほかに、堤のすぐ脇（堤内地）は住宅街となっています。流路が変わることによってこれらに被害があるのかないのか、説明をお願いします。

5. 環境影響評価書の不備について

遊楽部川～森町地区の環境影響評価調査では、すでに稗田理事から指摘しておりますように、10月初旬までの調査データしかなく、その後のデータが欠落しております。この地域では、10月末～12月にかけて魚類の特徴ある動きが見られますので、この時期の調査データを抜きにしては、環境影響評価ならびに工事に当たっての配慮がなされたとは決して言えません。すなわち、環境アセスの内容に根本的な不備がありますので、ぜひ、この点についてどう考えられているのか、ご説明下さい。